

(2) 科学技術基本計画

図表 2-5 2 科学技術基本計画の推移・概要

| | 第1期科学技術基本計画 1996年～2000年度 1996年7月2日 | 第2期科学技術基本計画 2001年～2005年度 2001年3月30日 | 第3期科学技術基本計画 2006年～2010年度 2006年3月28日 | 第4期科学技術基本計画 2011年～2015年度 2011年8月19日 |
|-------|--|--|--|--|
| 理念・目標 | <p>1. 活力ある豊かな国民生活を実現～革新的・革新的な技術の創成に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p>2. 人間が地球・自然と共生しつつ持続的に繁栄することを可能とする～地球規模の諸問題の解決に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p>3. 生活者のニーズに対応し、安心して暮らせる潤いのある社会を構築～健康増進、疾病予防・克服、災害防止等の諸課題の解決に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p><<目標は特になし>></p> | <p>1. 知の創造と活用により世界に貢献できる国の実現に向けて一歩一歩の創造</p> <p>2. 国際競争力があり持続的発展ができる国の実現に向けて一歩一歩の活力の創出</p> <p>3. 安心・安全で質の高い生活のできる国の実現に向けて一歩一歩の豊かな社会の創生</p> <p><<目標は特になし>></p> | <p>在記の前期計画の掲げる3つの理念を基本的に継承した上で、それぞれの実現するための目標として6つの大目標、12の中目標を設定。</p> | <p>第3期基本計画までの成果と課題を踏まえて政策を更に発展させ、科学技術とイノベーションを一体的に推進することにより、様々な価値創造をもたらすための新たな戦略と仕組みを構築するものである。</p> |
| | <p>理念1 ◆目標1 飛躍的発展・究明 ～ 未来を切り拓く多様な知識の蓄積・創造</p> <p>(1) 新しい原理・現象の発見・解明 (2) 非連続な技術革新の源泉となる知識の創造</p> <p>◆目標2 科学技術の限界突破 ～ 人類の夢への挑戦と実現</p> <p>(3) 世界最高水準のプロジェクトによる科学技術の牽引</p> <p>理念2 ◆目標3 環境と経済の両立 ～ 環境と経済を両立し持続可能な発展を実現</p> <p>(4) 地球温暖化・エネルギー問題の克服 (5) 環境と調和する循環型社会の実現</p> <p>◆目標4 イノベーション日本 ～ 革新を続ける強靱な経済・産業を実現</p> <p>(6) 世界を魅了するエコビタスネット社会の実現 (7) ものづくりナンバーワン国家の実現 (8) 科学技術により世界を勝ち抜き産業競争力の強化</p> <p>理念3 ◆目標5 生涯はつらつ生活 ～ 子供から高齢者まで健康な日本を実現</p> <p>(9) 国民を悩ます病の克服 (10) 誰もが元気に暮らせる社会の実現</p> <p>◆目標6 安全が誇りとなる国 ～ 世界一安全な国・日本を実現</p> <p>(11) 国土と社会の安全確保 (12) 暮らしの安全確保</p> | <p>これからの科学技術政策で中長期的に目指すべき大きな目標として、5つの国の姿を掲げ、政策を推進する。</p> <p><目指すべき国の姿></p> <p>1. 震災から復興、再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展を実現する国</p> <p>2. 安全かつ豊かで質の高い国民生活を實現する国</p> <p>3. 大規模自然災害など地球規模の問題解決に先導的に取り組む国</p> <p>4. 国家存立の基盤となる科学技術を保持する国</p> <p>5. 「知」の資産を創出し続け、科学技術を文化として育む国</p> <p><今後の科学技術政策の基本方針></p> <p>1. 「科学技術イノベーション政策」の一体的展開</p> <p>2. 「人材とそれを支える組織の役割」の一層の重視</p> <p>3. 「社会とともに創り進める政策」の実現</p> | | |
| 戦略・施策 | <p>I. 研究者等の養成・確保と研究開発システムの整備等</p> <p>(1) 研究者及び研究支援者の養成・確保 (2) 研究開発システムの整備 (3) 各種評価の実施</p> <p>II. 研究開発基盤の整備・充実</p> <p>(1) 研究開発施設・設備の整備 (2) 研究開発に関する情報化の促進 (3) 知的基盤の整備</p> <p>III. 多元的な研究資金の拡充</p> <p>(1) 競争的資金の拡充 (2) 多様な研究開発のための重点的資金の拡充 (3) 基盤的資金の充実</p> <p>IV. 私立大学における研究の充実</p> <p>V. 民間の研究開発の促進と国等の研究開発の成果の活用</p> <p>(1) 民間の研究開発の促進 (2) 国等の研究開発の成果の活用</p> <p>VI. 国際的な交流等の促進</p> <p>(1) 主体的な国際共同研究開発の推進 (2) 開発途上国との科学技術協力等の拡充 (3) 国際的な科学技術活動の強化のための環境の整備</p> <p>VII. 地域における科学技術の振興</p> <p>VIII. 科学技術に関する学習の振興及び理解の増進と関心の喚起</p> <p>(1) 学校教育における理科教育・技術教育の充実 (2) 科学技術に親しむ多様な機会を提供 (3) 科学技術に関する理解の増進と関心の喚起</p> | <p>I. 科学技術の戦略的重点化</p> <p>1. 基礎研究の推進 2. 国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化</p> <p>(1) ライフサイエンス文化 (2) 情報通信分野 (3) 環境分野 (4) ナノテクノロジー・材料分野 (5) エネルギー分野 (6) 製造技術分野 (7) 社会基盤分野 (8) フロンティア分野</p> <p>3. 急速に発展し得る領域への対応</p> <p>II. 優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革</p> <p>1. 研究開発システムの改革 2. 産業技術力の強化と産学官連携の仕組みの改革 3. 地域における科学技術振興のための環境整備 4. 優れた科学技術関係人材の養成とそのための科学技術に関する教育の改革 5. 科学技術活動についての社会とのチャンネルの構築 6. 科学技術に関する倫理と社会的責任 7. 科学技術振興のための基盤の整備</p> <p>III. 科学技術活動の国際化の推進</p> <p>1. 主体的な国際協力活動の展開 2. 国際的な情報発信力の強化 3. 国内の研究環境の国際化</p> | <p>第2章 科学技術の戦略的重点化</p> <p>1. 基礎研究の推進 2. 政策課題対応型研究開発における重点化</p> <p>(1) 「重点推進4分野」及び「推進4分野」 (2) 分野別推進戦略の策定 (3) 「戦略重点科学技術」の選定</p> <p>3. 分野別推進戦略の策定及び実施に当たり考慮すべき事項</p> <p>(1) 新興領域・融合領域への対応 (2) 政策目標との関係の明確化及び研究開発目標の設定 (3) 戦略重点科学技術に係る横断的な配慮事項 (4) 分野別推進戦略の効果的な実施～「活きた戦略」の実現</p> <p>第3章 科学技術システム改革</p> <p>1. 人材の育成、確保、活躍の促進 2. 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出 3. 科学技術振興のための基盤の強化 4. 国際活動の戦略的推進</p> <p>第4章 社会・国民に支持される科学技術</p> <p>1. 科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取組 2. 科学技術に関する説明責任と情報発信の強化 3. 科学技術に関する国民意識の醸成 4. 国民の科学技術への主体的な参加の促進</p> | <p>II. 将来にわたる持続的な成長と社会の発展の實現</p> <p>1. 震災からの復興、再生の實現 2. グリーンイノベーションの推進 3. ライフイノベーションの推進 4. 科学技術イノベーションの推進に向けたシステム改革</p> <p>III. 我が国が直面する重要課題への対応</p> <p>1. 安全かつ豊かで質の高い国民生活の實現 2. 我が国の産業競争力の強化 3. 地球規模の問題解決への貢献 4. 国家存立の基盤の保持 5. 科学技術の共通基盤の充実、強化 6. 重要課題の達成に向けたシステム改革 7. アジア共通の問題解決に向けた研究開発の推進 8. 科学技術外交の新たな展開</p> <p>IV. 基礎研究及び人材育成の強化</p> <p>1. 基礎研究の抜本的強化 2. 科学技術を担う人材の育成 3. 国際水準の研究環境及び基盤の形成</p> <p>V. 社会とともに創り進める政策の展開</p> <p>1. 社会と科学技術イノベーションとの関係強化 2. 実効性のある科学技術イノベーション政策の推進 3. 研究開発投資の拡充</p> |